

宗像市の家計簿

(令和3年度決算)

宗像市経営企画部財政課

はじめに ~令和3年度の決算について~

各種施策を行いつつ新型コロナウイルス感染症や物価高騰などへの対策を行いましたが、国からの地方交付税が増えたことで、市の基金を取り崩すことなく**黒字決算**となりました。

今後子どもや高齢者、障がい者などへの**福祉に必要な経費の増加**が見込まれますが、予定する事業をしっかりと実施していきます。

先行きが不透明な状況の中でも、行政サービスが停滞しないよう**安定的な財政運営**に努め、未来に向けたまちづくりの実現を図ります。

宗像市の各会計と決算額について

市が仕事をするために必要なお金を管理する財布を「会計」といいます。

今回ご紹介するのは、こちら

一般会計

教育・福祉や道路・公園の管理など、市の基本的な行政サービスを行います。

特別会計

特定の収入で特定の事業を行います。
国民健康保険や介護保険の事業を行う会計などがあります。

企業会計

主に利用者からの料金収入で事業を行います。
下水道事業を行う会計があります。

令和3年度決算額

(億円)

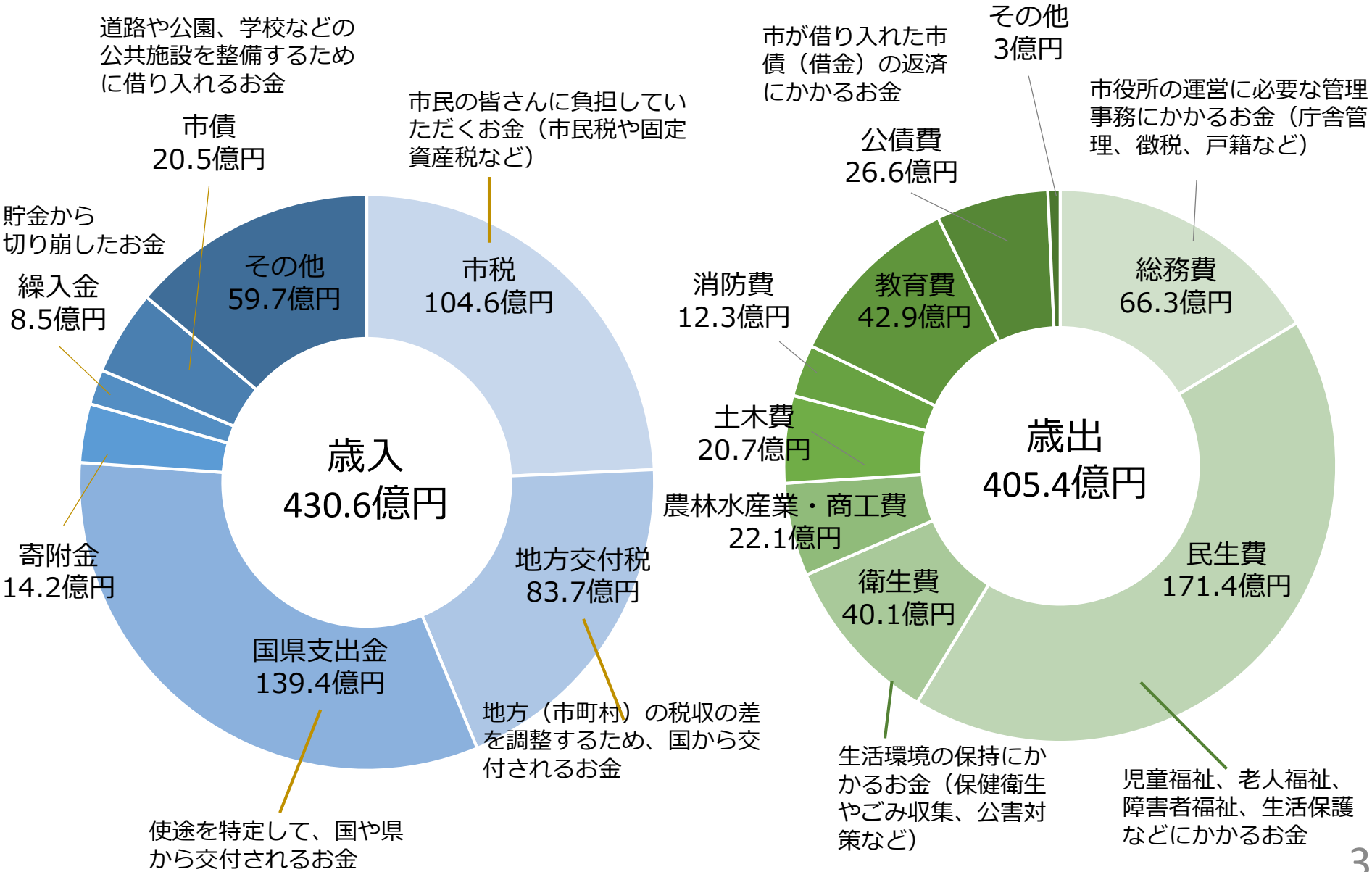
区分	歳入	歳出	差引
一般会計(1)	430.6	405.4	25.2
特別会計(6)	208.2	203.6	4.6
企業会計(1)	34.8	39.3	▲ 4.5
合計	673.6	648.3	25.3

収入の種類や使い道などに応じて会計を分けることで、分かりやすく、収支が明確となるメリットがあります。

()の数字はそれぞれの会計数

一般会計決算額について

令和3年度の一般会計決算額は次のとおりです。



一般会計決算額（特徴）について

1人あたり10万円を給付した特別定額給付金などの新型コロナウイルス感染症関係の国の実施する関連経費の縮小などにより、歳入額、歳出額ともに前年度を下回りました。

歳入 430.6億円で、前年度に比べて57.2億円減りました。

市税（市民税・固定資産税など）は、104.6億円でした（前年度比 概ね横ばい）

国から交付された**地方交付税**は、83.7億円でした（前年度比 +11.2億円）

用途を特定して国や県から交付された**国県支出金**は、139.4億円でした（前年度比 ▲69.6億円）

全国から支援いただいた**寄附金**（ふるさと寄附など）は、14.2億円でした（前年度比 ▲1.2億円）

基金（貯金）を取り崩した**繰入金**は、8.5億円でした（前年度比 ▲6億円）

金融機関から借り入れる**市債**（借金）は、20.5億円でした（前年度比 +2.3億円）

歳出 405.4億円で、前年度に比べて69.7億円減りました。

総務費（庁舎管理費用や徴税、戸籍などに必要な費用）は、66.3億円でした（前年度比 ▲94.6億円）

民生費（福祉に必要な費用）は、171.4億円でした（前年度比 +24.6億円）

衛生費（保健衛生やごみ収集などに必要な費用）は、40.1億円でした（前年度比 +12.3億円）

農林水産業・商工費（産業振興に必要な費用）は、22.1億円でした（前年度比 ▲5.5億円）

土木費（道路や公園の管理・整備に必要な費用）は、20.7億円でした（前年度比 ▲1.1億円）

消防費（消防や防災対策に必要な費用）は、12.3億円でした（前年度比 概ね横ばい）

教育費（教育や文化・スポーツの振興に必要な費用）は、42.9億円でした（前年度比 +5.3億円）

公債費（市が借り入れた借金の返済金）は、26.6億円でした（前年度比 ▲11.5億円）

一般会計決算額（特徴）について

令和3年度に行った主な事業を紹介します。

新型コロナウイルス感染症に係る対策 (46.7億円)

- ・新型コロナワクチンの2回目接種の実施
- ・福祉施設の職員や市民等への無料PCR検査の実施
- ・宗像地区急患センターの医療体制の維持のための追加経費
- ・市立学校の空調機の増設、手洗い器の自動水栓化
- ・中小事業者への20万円の応援金の給付
- ・キャッシュレス決済を活用した消費喚起
- ・タブレットを活用した教育ICT環境の整備



都市再生の推進(0.5億円)

- ・生活利便施設「ひのさと48」でのコミュニティ、学校、民間事業者等と協働したにぎわいづくりの創出
- ・店舗型移動サービスやドローン配送の実証事業の実施
- ・新たな交通手段として日の里地区でオンデマンドバスの実証運行の実施



稼ぐ力の強化(18.5億円)

- ・宿泊業支援事業として「宗像泊まってんキャンペーン」の実施
- ・ICT技術を活用した農業用機器の導入支援
- ・鐘崎漁港高度衛生管理型荷捌所の建設工事



防災対策の強化(3.2億円)

- ・避難所の環境改善を目的としたスポットクーラーの配置
- ・避難所となる市民体育館、各地区コミュニティ・センターにWi-Fiの設置
- ・消防団第5分団格納庫の改築
- ・令和3年8月豪雨に伴う災害復旧



市民一人あたりのお金の使い道について

一般会計の決算額を市民一人あたり※に換算すると、**41.8万円**の市民サービスを行っています。 ※令和4年3月31日時点の住民基本台帳登録人口を基準に算出

民生費

福祉の充実に

17.7万円

高齢者・障害者福祉、子育て支援など

+ 子育て世帯や生活困窮世帯への給付金の給付

教育費

教育・文化の振興に

4.4万円

小中学校の運営、文化、スポーツの振興など

+ 待機児童確保のための施設整備、保育所のICT化の推進、タブレットを活用した教育ICT環境の整備など

衛生費

環境・衛生の向上に

4.2万円

ごみの収集と処理
予防接種、環境保全など

+ 新型コロナワクチン接種の推進、福祉施設の職員や市民等へのPCR検査の実施など

土木費

道路・公園の整備と管理に

2.1万円

道路や橋、公園の管理など

+ 水災害ハザードに対するリスク分析、市街地をつなぐ路線の整備など

総務費

市役所の管理や市政運営に

6.8万円

市役所の維持管理やコミュニティ活動など

+ 「dボタン広報誌」サービスの開始、一部避難所へのWi-Fi整備や防災無線のデジタル化など

農林水産業・商工費

産業の振興に

2.3万円

農地や漁港の管理
農林水産業の活性化
商工業・観光の振興

+ 宿泊業の支援事業やICT技術を活用した農業用機器の導入支援など

消防費

消防に

1.3万円

消防団や消防施設の管理運営、防災対策など

+ 消防団第5分団格納庫の改築など

公債費

借金の返済に

2.7万円

市が借り入れた市債の償還元金と利子

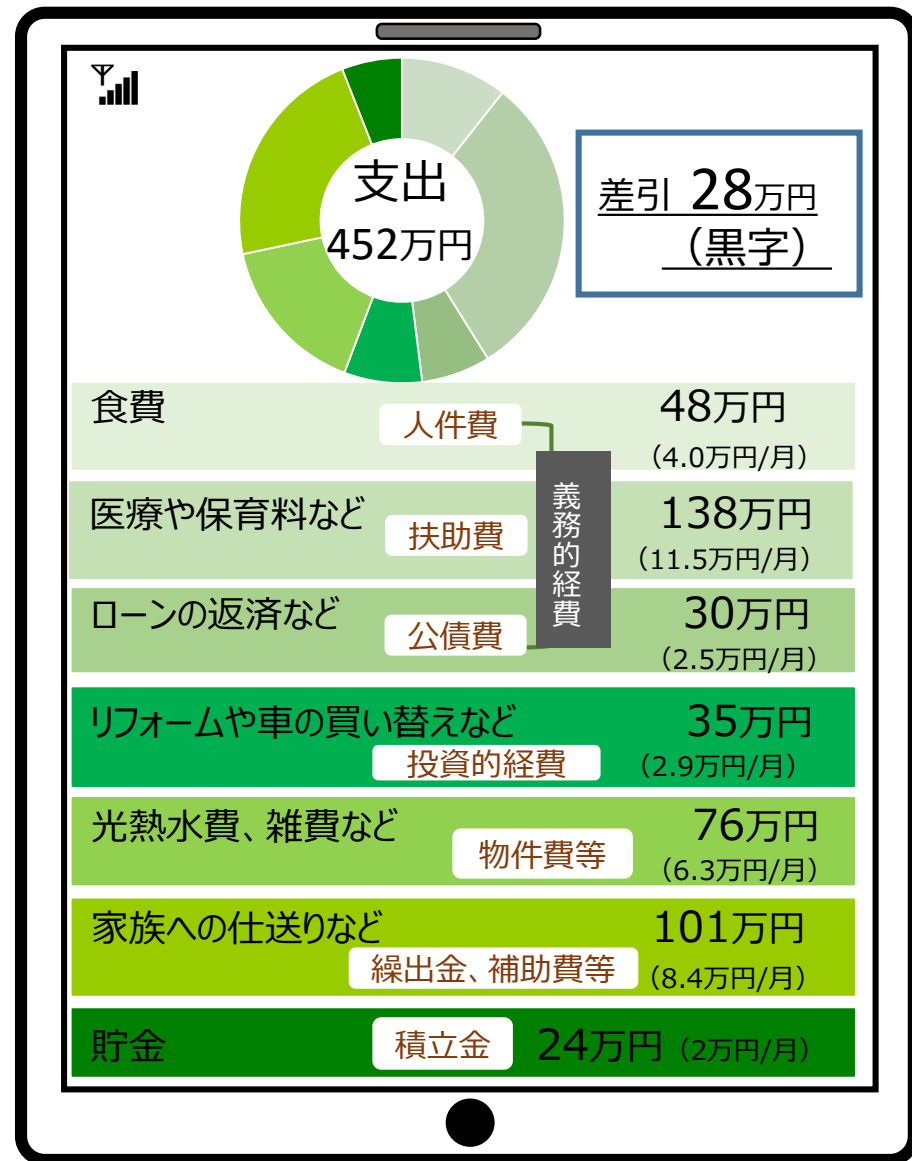
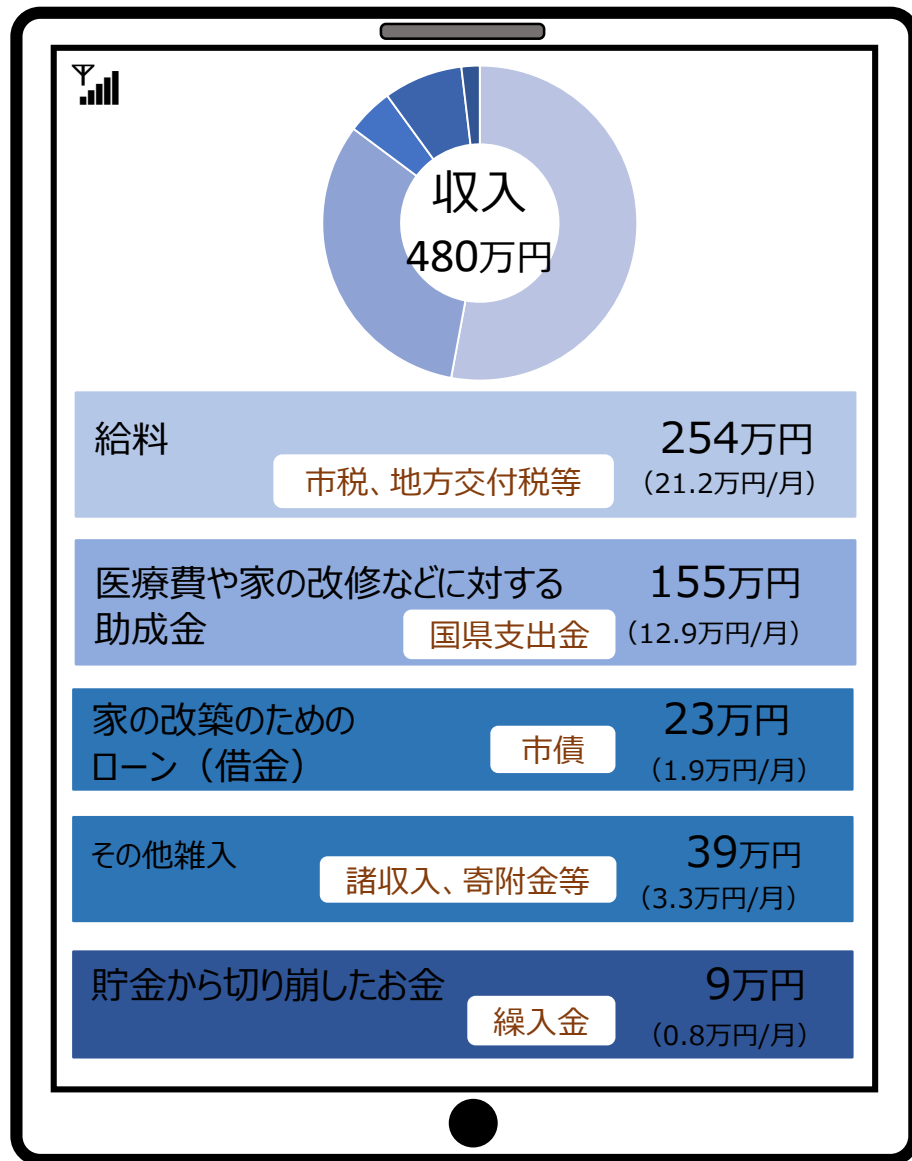
その他

0.3万円

太字はR3年度に行った主な事業

宗像市の決算を家計簿におきかえてみると…

一般会計の歳入を年収480万円（月収40万円）の家庭におきかえた時の家計簿は次のとおりです。



◆資産等の状況 預貯金（基金残高）245万円/ローン残高（市債残高）255万円

家計簿をもう少し詳しくみてみると…（10年前との比較）

10年前の平成23年度の「むなかた家」家計簿（宗像市決算）と主な項目を比較すると、医療費（扶助費）に係るお金に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、仕送り（繰出金、補助費等）に係るお金が増えています。

支出総額は10年前と比べて100万円増えています。（平成23年度352万円 → 令和3年度452万円）

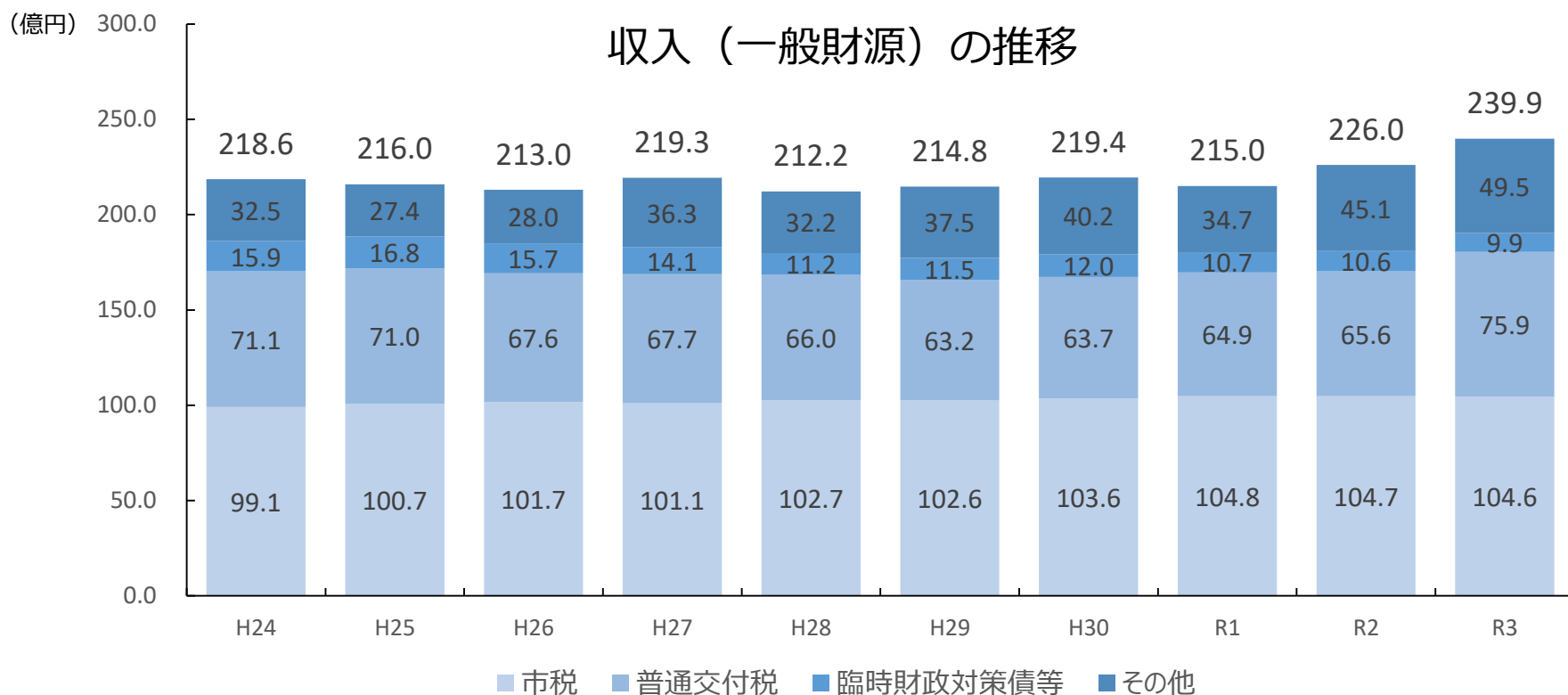
		10年前 (平成23年度)		現在 (令和3年度)
収入	給料など (市税、地方交付税、使用料など)	227万円	…➔	254万円 (+27万円)
	雑収入 (寄附金、財産収入、諸収入)	12万円	…➔	25万円 (+13万円)
	貯金取り崩し (繰入金)	0円	…➔	9万円 (+9万円)
支出	食費 (人件費)	42万円	…➔	48万円 (+6万円)
	医療費など (扶助費)	73万円	…➔	138万円 (+65万円)
	仕送り (繰出金、補助費等)	78万円	…➔	101万円 (+23万円)

宗像市の財政状況について（収入）

収入のうち、市の裁量で自由に使えるお金である一般財源について説明します。一般財源の中でも重要な財源である市税は、毎年約100億円で推移しています。

令和3年度は、市税のうち、「市民税（法人）」は事業者の業績回復により増加しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた令和2年度より、給与所得の減少による「市民税（個人）」が減少した結果、市税総額は前年度から0.1億円の微減となりました。

今後、人口等の大きな増加や市税の大幅な増収は見込まれないと考えています。そのため、国や県の補助事業の活用、ふるさと寄附などの確保に努め、自治体の財政基盤を強化していきます。



宗像市の財政状況について（支出）

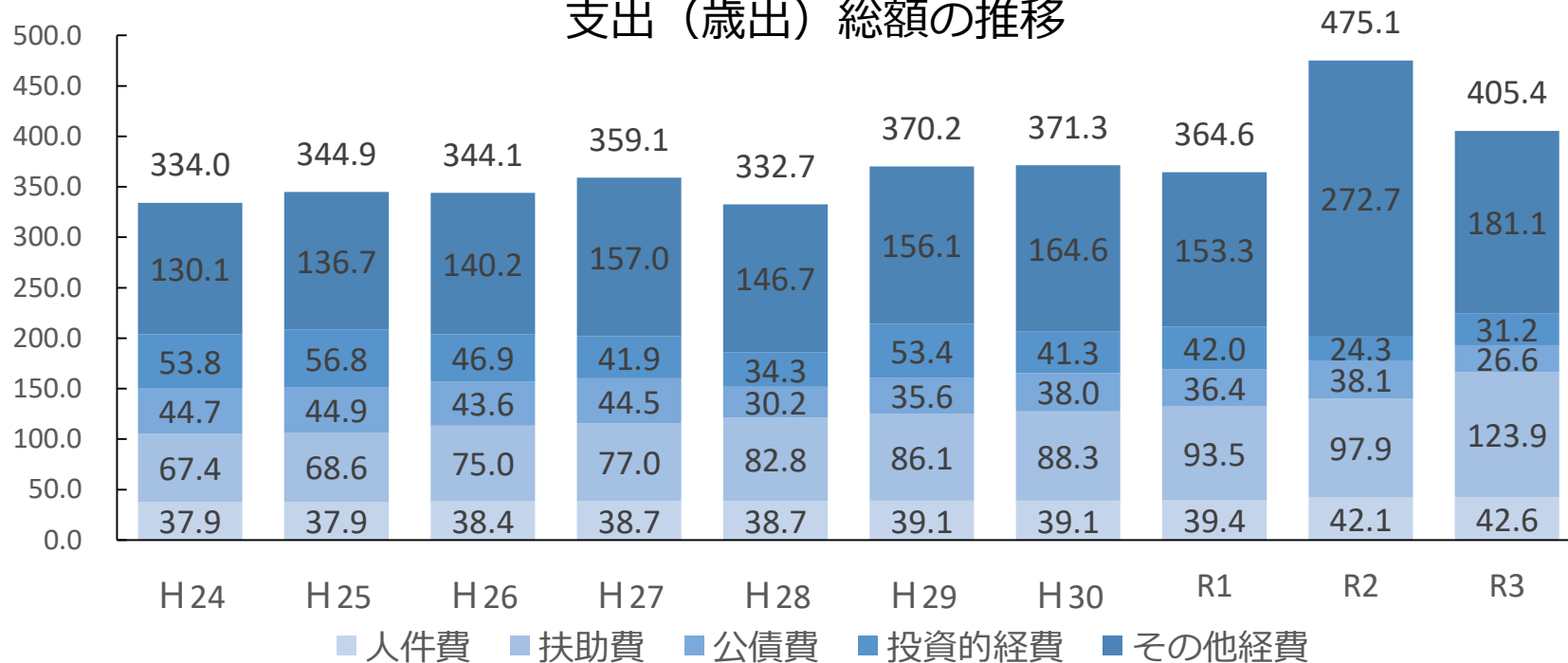
宗像市の支出（歳出）総額について説明します。扶助費（※）の支出（歳出）額は、年々増加しており、収入に大きな伸びが見込まれない中で、新しい事業への投資に使えるお金が少なくなってきました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症関連経費により、扶助費、物件費及び補助費等の増減が大きくなっています。令和4年度以降も、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染状況や物価高騰等の影響により、依然として先行きが不透明な状況が続く見込みであり、新型コロナウイルス感染症関連経費をはじめとする様々な財政需要に備える必要があります。このような厳しい財政状況の中でも行政サービスが停滞しないような安定的な財政運営に努めていきます。

※扶助費とは・・・子ども、高齢者、障がい者などに対する福祉のために必要な経費

(億円)

支出（歳出）総額の推移

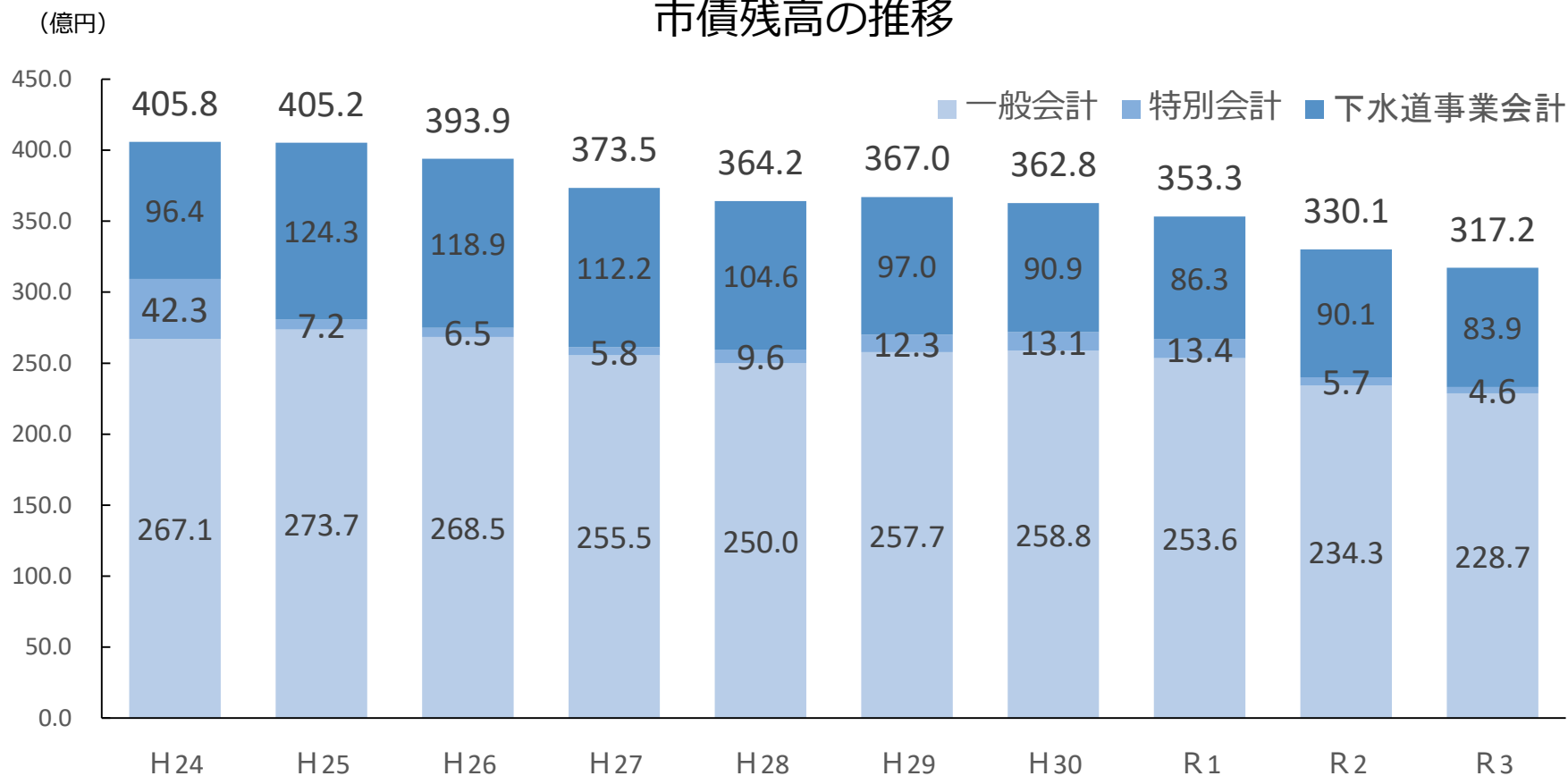


宗像市の財政状況について（市債）

宗像市が抱える借金（市債）は、約317.2億円です。 ※令和3年度末市債残高（全会計ベース）

道路や下水道の整備のほか、小中学校の改修やコミュニティ・センターの建設などに市債を活用して事業を行ってきました。何十年もの長期にわたり利用される公共施設は、将来にわたって公共施設を利用するみなさんにも公平に負担してもらう考えから借金（市債）をして整備を行っています。

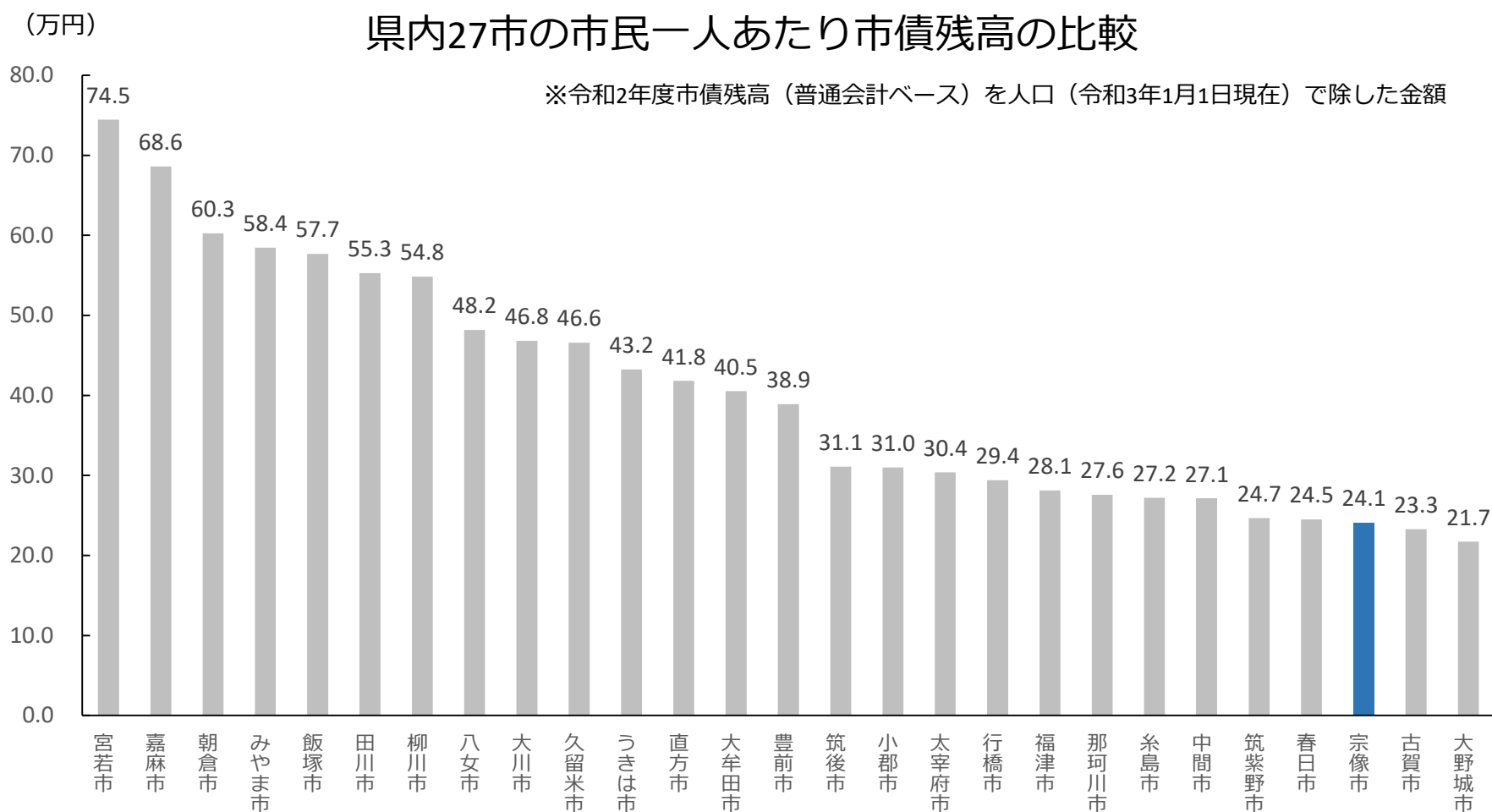
市債残高の推移



宗像市の財政状況について（市債）

令和2年度末において、宗像市の市民一人あたりの市債残高は、約24.1万円です。

県内27市の他の市と比べても、低い水準（3番目）にあり、将来世代への負担は、比較的低い状況にあります。

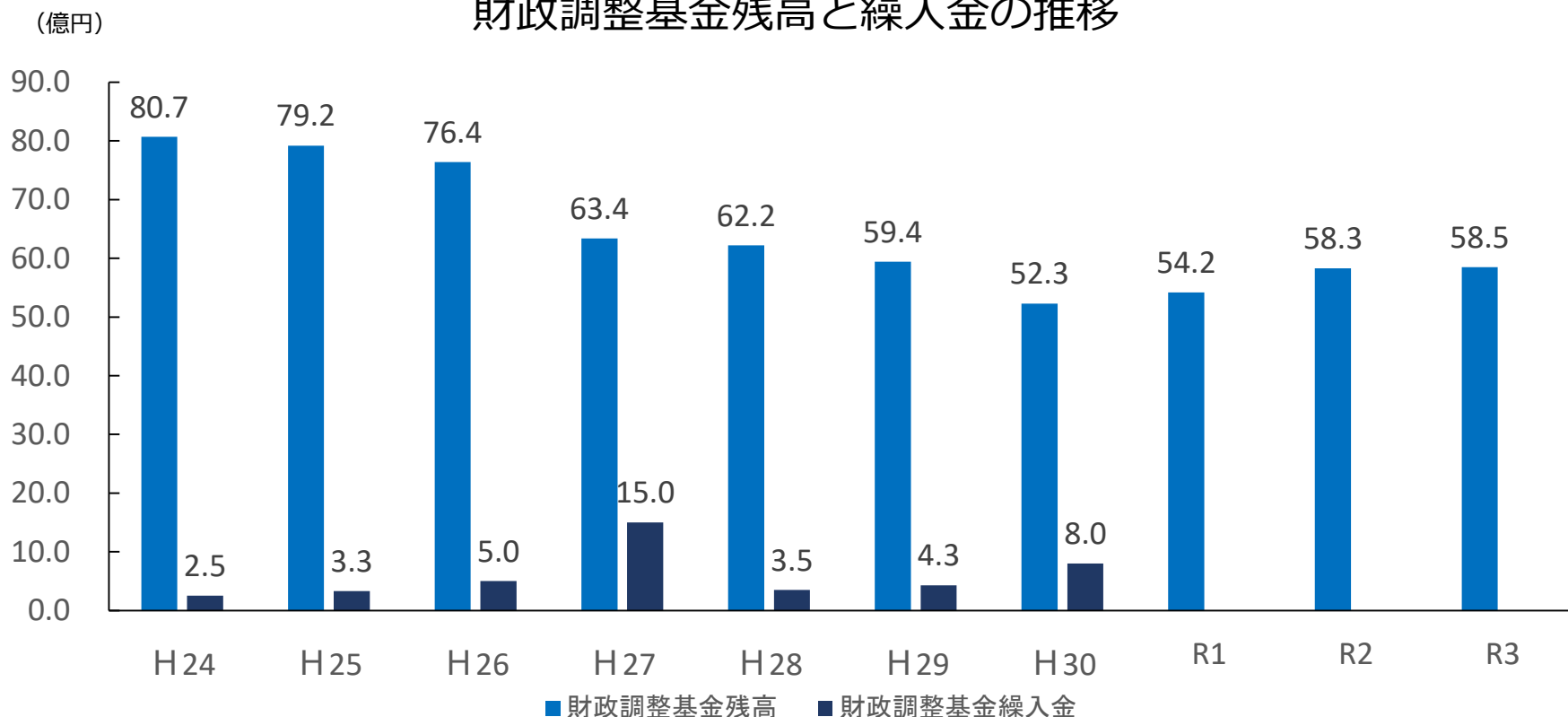


宗像市の財政状況について（基金）

財政調整基金とは、市の財政運営において年度間の財源の不均衡を調整するための基金です。財源に不足が生じる場合においては、この基金を取り崩しながら財政運営を行っています。

令和3年度は、当初予算編成時、不足する財源に対して財政調整基金の繰り入れを予算措置していましたが、国から地方交付税が追加交付されるなどしたため、結果的に取り崩さずに済みました。そのため、前年度より0.2億円増加しています。

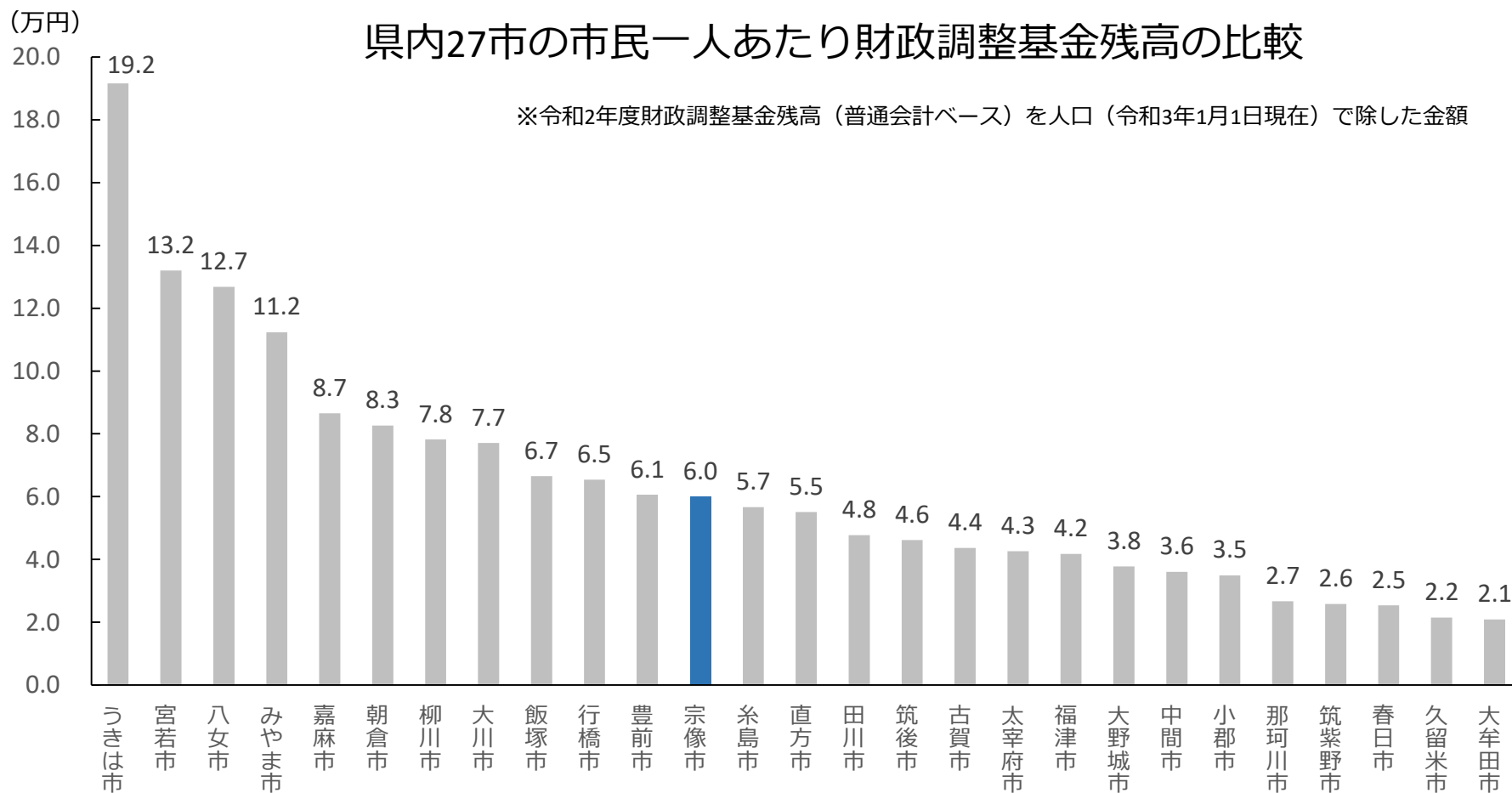
財政調整基金残高と繰入金の推移



宗像市の財政状況について（基金）

令和2年度末において、宗像市の市民一人あたりの財政調整基金残高は、約6.0万円です。

県内27市の他の市と比べて、12番目に位置しています。新型コロナウイルス感染症対策などの不測の財政需要への活用を踏まえると、現状のように一定程度の残高維持に努める必要があります。



宗像市の将来見通しについて

○今後の財政見通し

- ・ 継続する新型コロナウイルス感染症対策への関連経費
- ・ 伸び続ける医療や福祉に必要な扶助費
- ・ 増加する国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療への公費負担
- ・ 物価高騰や賃上げなどによる管理コストの増加
- ・ 学校の建替工事などの計画的な維持更新



新型コロナウイルス感染症や物価高騰などの影響により、依然として先行きが不透明な状況が続く見込みであり、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとした、必要な行政サービスを停滞させることなく、行政運営を図っていく必要があります。

そのため、国県支出金やふるさと寄附金の活用により、必要な財源確保を行いつつ、行政サービスのデジタル化等による行政事務の効率化や行財政改革を図っていくことで、経常的な経費の圧縮に努めていきます。

あわせて、老朽化に伴う公共施設等の維持管理については、計画的な公共施設の更新を図り、行政サービスが停滞しないような安定的な財政運営に努めていきます。

宗像市の財政状況は市ホームページ
「市政情報」 > 「市の財政」でもご覧いただけます。